

代表質問・一般質問から

第1回定例会では、市長の施政方針に対して、会派ごとに質問をする「代表質問」と無所属議員による「一般質問」が4日間にわたり行われました。2面～7面では、市長の施政方針及び代表質問・一般質問の主な内容についてお知らせします。

全文は後日、会議録に掲載されます。公開予定は10面をご覧ください。



動画視聴はこちらから!

〈本会議中継QRコード〉  
(次の定例会の中継が公開されると、視聴は終了します)

市長の施政方針の概要

2月26日の本会議において、市長が施政方針を表明しました。詳細は市報3月15日号、市ホームページをご覧ください。



これからのまちづくりに向けて

人口構造の変化や環境の激変が重なり合う今こそ、将来を見据え更なる改革が必要不可欠である。SDGsの理念に「スマートウェルネスシティ」の視点を加え、市民のウェルビーイング向上に着実に取り組む。また、公共施設等の老朽化対策に予算を配分し、次世代へ形あるものを残す。

政策の4つの柱

子どもが「ど真ん中」のまちづくり

全ての子どもの健やかな育ちを支える。学校教育環境の向上を図る。切れ目のない支援体制を構築し、子どもたちが地域で安心して暮らしていけるよう、環境を整えていく。

次世代につながる環境施策

幼少期からの環境学習に力を入れ、民生部門の二酸化炭素排出の抑制に努める。市民、

市内事業者の皆様への環境への取組を支援する。

恒久平和への願いを

市民とともに取り組む平和施策 子ども・若者が主体的に平和の尊さを学び、平和の担い手を育成することで、次世代につながる平和施策を確立していく。

若者と一緒にはちづくりを推進する若者施策

若者が希望を持って活躍できる基盤を整え、若者の活力を引き出す取組を進めるとともに、若者と一緒にはちづくりを推進していく。

令和8年度の主要な取組

子どもにやさしいまち

PMH連携でシステムを改修し、マイナ保険証を活用した受診環境を整備する。こども誰でも通園制度やベビシッター利用支援事業を開始し、多様化する保育ニーズに対応する。多胎児家庭の外出時タクシー利用料金を助成し、負担軽減を図る。

田無柳沢児童センターを中高生特化型児童館に改修する。児童クラブ過密化対策として、タイムシェアを新たに市内4校で実施する。

小中学校の普通教室等の空調設備更新や増設を行い、快適な学習環境を整える。(仮称)西東京市特別支援教育推進計画の策定や、音声出力会話補助装置等の導入により、一人ひとりの特性に応じた学びを支援する。

た学びを支援する。健康で元気なまち

聴力機能が低下し、コミュニケーションが困難な高齢者の方を対象に補聴器購入費を補助し、社会的孤立を防ぐ。認知症の方へのユマニチュード普及や実践への取組を進める。

健康eスポーツ事業を拡充し、フレイル予防や社会参加を促す。聴覚に障害がある方等のため、窓口に字幕表示スクリーンを導入する。

ひきこもり支援プログラムを充実させ、家族を伴走型で支える。 集える場とつながりのあるまち

市民まつりへの財政的支援を強化し、賑わいを継続できるように取り組む。旭のかりん糖 西東京市スポーツセンター大規模改修に向けた実施設計等を進める。

下野谷遺跡の公有地化を進め、貴重な歴史的遺産を次世代へ確実に引き継ぐ。 コミュニティセンター等へ公衆無線LANを整備し、市民活動を支援する。

保谷庁舎敷地の憩いの空間の創出へ向け、事業者による施設整備の準備に着手する。安心・安全で快適なまち

東伏見駅周辺地区のまちづくり基本計画の策定と、拠点性と回遊性を高める3・4・17号線の事業化に向けた予備設計に着手する。

「はなバス」老朽車両の更新やバスロケーションシステムを導入する。公園の指定管理者制度を全域に拡大し、質の高い管理を行う。

激甚化する豪雨へ備え、向

台町等で雨水溢水対策工事を実施し、被害軽減を図る。

ごみ袋の一部にバイオマス素材を導入し、試験運用を行い、環境負荷の軽減を目指す。住宅等の耐震診断・改修等助成の拡充と、一般緊急輸送道路沿道建築物への助成を創設し、地震に強いまちを推進する。

防犯カメラの運用経費への補助を創設し、地域での見守り活動を支援する。

市民とともに発展するまち 多様な主体が交わるSDGsプラットフォームを創設する。

若者の奨学金返還支援事業を開始するとともに、若者会議を開催し、意見を市政に生かす。 平和大使事業や子ども・若者平和ワークショップを実施し、次世代の平和の担い手を育成する。

中小企業等に対するDX化推進事業を創設し、地域経済の発展を促す。 農業用施設整備等の支援補助金を拡充し、安定した経営基盤強化を目指す。

行財政基盤の強化を 絶えず目指すまち 全庁業務量調査を実施し、全庁的なBPRを強力に推進して業務見直しを行う。

誰もがより利用しやすく、分かりやすい市ホームページへの刷新を進める。

基幹システムの標準化移行を計画的に進める。マイナンバー専用窓口を設置して混雑緩和を図る。

書かないワンストップ窓口実現の検討を進める。

ふるさと納税の返礼品を拡充し、応援してくれるファンを増やし歳入確保につなげる。

自由民主党西東京市議団

市のさらなる発展と課題解決に向けた積極的な取組を求めるとみなが ゆうじ

- 佐藤 大介、山田 忠良、中川 清志、坂井 かずひこ、酒井 ごう一郎、保谷 なおみ、稲垣 裕二、小林 たつや

市長の政治姿勢について

問 施政方針にある今年の一歩「一歩」について、「一歩」に込めた市政を「一歩一歩、着実に」という決意を、2期2年目の市政運営にどのようにつなげていくのか伺う。

答 市政運営に臨むに当たり、過日実施した戦後80周年平和大使派遣事業の若者たちの成長を目の当たりにし、平和を未来につなぐ確かな一歩を肌で感じた。若者の真剣な姿に触れる中で、市政についても「一歩一歩、着実に」前進させる姿勢が大切であると感じ、この姿勢を2年目の市政運営につなげていきたいと考えている。今年度は、市民の皆様が心から本市に住み続けたと思うようなまちづくりを進めるべく政策基盤を確実に強化するとともに、市民の皆様の声に耳を傾け

政策の4つの柱について

問 施政方針に示された「4つの柱」を基軸とした、次世代へ歩む責任ある選択についてどのように取り組むのか伺う。

答 これまで次世代への責任ある選択を政策判断の基軸にし、子どもが「ど真ん中」のまちづくりを政策理念の中心に据え、次世代につながる環境施策、恒久平和への願いを市民と共に進める平和施策、若者と一緒にはちづくりを推進する若者施策を加え、これらの4つを市政の柱として発展させてきた。今年度は、これまでに継続して取り組んできたこれらの4つの柱を基軸に据え、それぞれの施策をさらに発展・深化させると

\*スマートウェルネスシティ 「健康(ウェルネス)」をまちづくりの中核に位置付け、市民一人ひとりが健康で元気に幸せに暮らせる新しい都市モデル。  
\*ウェルビーイング 市民一人ひとりが幸せを実感し、多面的で持続的な幸せの状態。 \*PMH(Public Medical Hub) 自治体、医療機関、薬局、市民を個人番号カード(マイナンバーカード)で連携するもの。  
\*ユマニチュード 「あなたのことを大切に思っています」というメッセージを相手が理解できるよう伝えるためのコミュニケーション技術。  
\*BPR(Business Process Re-engineering) 業務プロセスの全体を根本から見直し、再構築するもの。